

平成八年度 帯広市

文化賞

文化奨励賞

帯広市教育委員会

帯広市文化賞受賞者紹介



てら し はる ひと
寺 師 治 人
とよし
(寺師豊治)

(80歳)

《受賞理由》

氏は、昭和8年独学で作歌を始められ、昭和26年歌誌『山脈』、さらには昭和29年歌誌『鴉族』の発行に際し中心的な役割を果たされました。自らも同人誌等に作品を発表されるとともに、昭和60年には歌集『凍雲』を世に問うなど精力的な作歌活動を続けられ、その作品は斯界より高い評価を受けております。

また、地域の歌人の育成に尽力されるとともに、中城ふみ子、舟橋精盛らの歌碑建立に際しても貢献されました。

このような氏の長年にわたる活動は、地域文化の向上発展に大きく寄与するものであるため、帯広市文化賞を贈り顕彰します。

《略歴》

- ・大正 5 年 帯広町に生まれる
- ・昭和 8 年 独学で作歌を始める
- ・昭和 20 年 小樽協会病院より帯広協会病院に放射線技師として転任
- ・昭和 21 年 病院職員文芸誌『花園』(のち『オアシス』に改称) 創刊に参加
- ・昭和 26 年 歌誌『山脈』創刊に参加
- ・昭和 29 年 歌誌『鴉族』を創刊(発行人 寺師治人、編集人 舟橋精盛)
- ・昭和 31 年 大成火災海上保険(株)に入社、営業所長
- ・昭和 48 年 同社を定年により退社、(有)帯广大成社に入社、現在代表取締役
- ・昭和 53 年 歌誌『鴉族』の編集、発行人
- ・昭和 55 年 “中城ふみ子会”を結成
- ・昭和 60 年 歌集『凍雲』出版
- ・昭和 63 年 十勝文化会議十勝文化賞 受賞

※鴉族二十人集『凍日』、合同歌集『あらくさ』、京極正宵遺歌集『望郷』他

帯広市文化奨励賞受賞者紹介



ふる や さと こ
古 家 智 子

(51歳)

《受賞理由》

氏は、昭和57年帯広百年記念館で開講された陶芸研究会を受講された後、研鑽を重ねられ、近年数々の展覧会でその技量及び芸術性が高く評価されております。

また、百年記念館陶芸研究会等の講師をつとめられるほか、自らも築窯され陶芸愛好者の育成につとめられるなど、地域の陶芸の普及発展に大きな功績を残されました。

このような氏の真摯な活動は、地域文化の向上発展に寄与するとともに、今後の活動も大きく期待できるものであるため、帯広市文化奨励賞を贈り顕彰するものです。

《略歴》

- ・昭和 20 年 帯広市に生まれる
- ・昭和 55 年 帯広陶芸講座受講
- ・昭和 61 年 平原社展初出品 入選（以後連続入選）
- ・昭和 62 年 全道展初出品 入選（以後連続入選）
- ・平成 元 年 慕窯 築窯
- ・ " 平原社美術協会 会友推挙
- ・平成 2 年 日本現代工芸美術展初出品 入選（以後連続入選）
- ・ " 平原社美術協会 会員推挙
- ・平成 4 年 日本現代工芸美術家協会 会友推挙
- ・平成 5 年 個展開催
- ・平成 6 年 日本現代工芸美術展 日本現代工芸賞受賞
- ・ " 第26回日本美術展覧会 初入選
- ・平成 7 年 帯広市民劇場賞 受賞
- ・ " 個展開催
- ・ " 日本現代工芸美術家協会 会員推挙
- ・平成 8 年 全道美術協会 会員推挙